

時間表現理論／演習I

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：19世紀に発明された写真技術は、近代視覚文化に多大な影響を与えたばかりでなく、現代社会のコミュニケーションに欠かせないメディアである。本講義前半は、写真メディアの特徴やその可能性を理解し、スナップ、風景、静物、組写真など写真表現の基礎的手法を修得する。

映像とは時間的変化を視覚表現として発展させた技術であり、現在我々の社会においてはアート、広告、エンターテインメント等様々な場面において無くてはならないものとなっている。後半では前半で自らが撮った写真を素材にして映像制作の基本手法を修得する。

■**到達目標**：①写真メディアの特徴と可能性を説明できる。一眼レフカメラを用いた基本的な撮影手法と、写真のプリント手法を理解し、実践できる。

②自身のアイデアや行為を表現するためのメディアとして、写真を積極的に活用し表現できる。

③映像が静止画の連続性によって成り立っていることを知り、静止画から映像の制作を実践する

④映像の空間及び時間の概念がどのようなものかを理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎ 須之内 元洋、石田 勝也

■**授業計画・内容**：

第1回 写真の可能性、一眼レフカメラの基本

第2回 撮影演習 静物写真

第3回 撮影演習 風景写真

第4回 撮影演習 スナップ写真

第5回 課題オリエンテーション、写真プリントの基本

第6回 プリント演習

第7回 プリント演習

第8回 プリント仕上げ・展示

第9回 映像の成り立ち、課題オリエンテーション

第10回 映像制作演習 コンテ制作

第11回 映像制作演習 素材選定・切り分け

第12回 映像制作演習 時間変化1

第13回 映像制作演習 時間変化2

第14回 映像制作演習 映像の書き出し・圧縮方法

第15回 映像作品講評

■**教科書**：なし

■**参考文献**：講義中に適宜紹介します。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
授業内演習・レポート	◎	◎				20
発表						
作品		◎				40
出席	◎	○			2/3以上の出席必須	40
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：時間表現理論／演習II、メディア芸術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：